

校訓	盡 己	令和2年度学校通信 「松崎中だより」 第5号	発行日	令和2年6月24日
教育目標	すべてのことに全力で取り組む生徒の育成 「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 佐藤 幸宏

今日は松崎中学校の創立記念の日

本日6月24日は、松崎中学校の創立記念日です。本校は、昭和50年に西中学校と南中学校の過密解消のため、この地（当時は山田字松崎という地）に市内6番目の学校として、地元地域の熱い期待



に包まれる中、開校しました。今年で45周年を迎えます。開校年度は、新2年生が、西中学校から196人、南中学校から33人、合わせて233人（6クラス）、新1年生が、235人（6クラス）と、全校生徒数468人で始まりました。この年のこの日に開校式が挙行され、「自己の最善を尽くす」という意味が込められた校訓「盡己」が制定されました。体育館正面左に掲げられている「盡己」の文字が刻まれた大きな木額は、山田農会より寄贈されたものです。この松崎中学校で、「盡己」の精神に支えられ学び、巣立った卒業生は12,037人となりました。それぞれの場所で活躍する先輩方とともに、創立記念日をお祝いしたいと思います。

私たちにできること

梅雨の時期、昆陽南公園や学校の木々の葉は、一段と生い茂り、水分も十分吸収し色も益々濃くなってきています。セミの鳴き声も聞かれるようになり、夏が近づく気配を感じています。分散登校の2週間は、昼の登下校時間が暑くなるこ



とが心配されましたが、通常登校となつてからは、登下校も暑さをしのげる朝夕に変わりました。しかし、今後徐々に気温も高くなり熱中症への対応も必要となってきます。文部科学省「学校の新しい生活様式（改訂版）」では、「学校教育活動においては、飛沫を飛ばさないよう、基本的には常時マスクを着用することが望ましい。」とされた上で、「十分な身体的距離が確保できる場合は、マスクの着用は必要ありません」と示されています。登下校時など、人と十分な距離を確保できる場合にはマ

スクを外すなど、適切に判断した、臨機応変な行動が求められてきます。

さて、日本には古くから「傘かしげ」という言葉が伝えられています。狭い路地などで傘をさした人同士がすれ違うとき、お互いの傘が接触しないように、また、その時の雨粒をどちらもしのげるようにと、自分の傘を外に少し傾け合う仕草をすることで、人が首をかしげる様に似ていることからその言葉となったそうです。相手に対する配慮が仕草に表れた美しい行為である「傘かしげ」。今ほとんどの道は広くなり、狭い路地を通ることも、そうした場面を見ることも少なくなりましたが、その精神は、その呼称とともに受け継がれているのではないのでしょうか。

手洗いや咳エチケット、換気、といった基本的な感染症対策に加え、感染拡大リスクの高い「3つの密」を避けるため、身体的距離の確保（ソーシャルディスタンス、フィジカルディスタンス）という「新しい生活様式」に、学校だけでなく社会全体が移行しています。「うつらない うつさない」を合言葉に、日々の手洗いの仕方から人との距離のとり方まで、一人ひとりができることを学び、実践し続けることが重要です。地域感染レベルをもとにした可能な限りのリスク回避の行動「新しい生活様式」は、自分の為だけでなく、周りにいる人の為でもあり、それが習慣化し、日常生活の当たり前となったとき大きな効果が表れるのだと思います。第2波がいつ来るかわからないという状況の中、そうした取組を続けることは、主体的な生活や学習にも繋がっていくこととなるでしょう。お互いを思いやる心のソーシャルディスタンスが、家族や友達を、そして国を、世界を救い、そして自分を救うことに繋がるのです。

コロナウイルス感染症予防に向けて！

- ・毎朝の検温、記録により風邪症状等の有無の確認
- ・こまめな手洗いの徹底
- ・咳エチケットの徹底（マスクの着用）
- ・健康管理（十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事）
- ・不要不急の外出を控える
- ・三密（密閉、密集、密接）の回避
- ・ゼロ密を目指す

【手洗いの6つのタイミング 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」より】

○外から教室に入るとき ○咳やくしゃみ、鼻をかんだとき ○給食の前後

○掃除の後

○トイレの後

○共有のものを触ったとき

